

四百三十字の裏で



渋谷 繁樹

二〇一二年八月二十四日の午後六時五十四分前、鹿児島県の民間放送の一局で、一週間に一回、報道随筆を担当している還暦を過ぎた新聞記者は、時刻ギリギリまで、何をしゃべるか、迷っていた。あらましは原稿にして事前に送信しているけれど、口を開いたらゼンゼン別の話になってしまう場合もある。

出番が来た。「こんばんは」とスタジオのアナウンサーに呼びかけられて、二分行間、字数にして四百三十、テレビ随筆が始まった。

「夏休み終盤の恒例行事となりました宿題お助け活動が始まっております。お母さんからのお電話には別に驚かないんですが、孫から頼まれましてというお話が数件あって、ご苦勞様ですね、と思わず申し上げてしまいました。家族の単位が小さくなっていますから三世代総動員であたつてらっしゃるんでしょう。人生の大ベテランとしての智恵が大いに発揮されればいいですね。(序破急の序で滑らかに滑り出せれば、後は波に任せる)こちらでもベテランのはずなのに首を傾げさせるのが、韓国の大統領。当方、吸うのは韓国製煙草、夏のスタミナ源は韓国のなんでもかんでもぶちこむ鍋で、先日も韓国に行ってきたばかりですので、一寸、気になります。

今のところ、頂くご意見も友好を再確

認したいとみなさん冷静にお考えのようですが、そうでなくても、台風で荒波が立つのが、日本韓国中国を取り巻く海です。波を鎮める智恵を出し合う対応を、どの国にもお願いしておきましょう。大人というかベテランというか、あんまりカッコしない穏やかな境地もいんじゃないかという、鹿児島折本さんの俳句です。『聞き流すことも覚えて秋扇』

しゃべりながら、二百三高地から大連の港を眺めた夏を、思い出していた。大日本帝国にしろロシアにしろ、清というよそ様の土地を舞台に、派手な戦いを山でも海でも繰り広げた、中国と戦争論を闘わせる際、踏みにじったのは中国の大地、という地点から逸脱はできない。すぐ激す。平気でウソをつく。反省はしない。相手をしていて疲れる特質ばかり備

えている民族だけれども、近世史で最初にケンカを売ったのはコチラだから、「小日本は、人民解放軍を出動させて殲滅してしまえ」と罵られても、オー、上等だ、やってもらおうじゃないか、というわけはいかない。

韓国の方は、ついこないだ、六月に行ってきた。円がかなり高くなっていて、実勢で二十対一くらいの買い物感覚になる。日本では飲み出すとツマミをほったらかしてしまうカラノミ派なのに、韓国では頻繁に箸が動く。何度も同行している知り合いに「アンタはほんとはこっちの民族なんじゃないの」と、いつも言われる。市場でも堂に入ったもので、エゴマ（オオバ）の漬物なんか、料理屋のオカミがアタシでも見つけきらんと感心してしまいう逸品を、手もなく掘り出したり

する。

韓国民族の特徴といえ、見栄っ張り、に尽きる。自意識が漲っているから、若い女性は化粧に金を遣い、整形に平気で挑む。オバサンになると、チリチリパーマにアッパツパと豹変するけれども、ロシアも少女とオバサンはおんなじ民族とは思えないから、遺伝子が違ってくる、人間の質が違ってくる考えた方がいい。韓国男もショーウィンドーに映る自分を眺めてウツトリ、の手合いが多い。

中国人民ほど柄は悪くないが、韓国人民にも日本人民は分が悪い。誇り高い人民を征服した歴史は消えない。今度の韓国大統領の行動は洗練よりも稚拙が前面に出ているにしても、負い目を持つている方があからさまに批判してしまうと、角は立たざるを得ない。

放送で引用する俳句類は鹿兒島の人がつくった作品に限っている。今回は随筆内容に即したわかりやすい俳句だったかなと考えながら、最後の決まり文句の「読者室でした」につないでいく。四百三十字を声に出している間、心は、日本、韓国、中国を、行ったり来たり、今後の往来も盛んにと祈りながら。(新聞記者)

